

# HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand

表 1. 製品情報

品番	品名	容量	保存	安定性
A308-01	HaloTag <sup>®</sup> STELLA Fluor <sup>™</sup> 650 Ligand	30nmol	遮光冷凍保存 DMSO 溶解後は使い切り	未開封で約 1 年
A308-02		60nmol		

## 1. はじめに

### ■ HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand について

HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand は、HaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質と特異的に結合する Chloroalkane 部位を有した STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 プローブです。細胞膜透過性があり、生細胞に発現する HaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質の特異性の高い標識が容易に可能です。

### ■ 保存

色素は窒素封入、乾燥状態で冷蔵出荷しております。入荷後は遮光冷凍保存 (-20°C) してください。DMSO 溶解後は使い切りを推奨します。

## 2. HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand による生細胞染色プロトコル

### ■ ご用意いただくもの

- ・ Dimethylsulfoxide (DMSO), anhydrous
- ・ 適切な洗浄および観察用バッファー (例: PBS pH 7.4, HBSS など)

### ■ 試薬の調整および細胞染色

1. HaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質を発現させた細胞をガラスボトムディッシュ上に用意します。
2. HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand を無水 DMSO 中に溶かし、1 mM のストック溶液とします。
3. HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand の濃度が、1-2  $\mu$ M となるように培地に溶解し、染色液とします。
4. 細胞を染色液を入れ、5% CO<sub>2</sub> 雰囲気下で 37°C で 0.5 時間インキュベートします。
5. 余剰色素を取り除くために HBSS、もしくは培地で一回、細胞を洗浄します。
6. HBSS、もしくは培地中に細胞を浸し、常法にてライブセルイメージングを行います。

\* HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand は洗浄作業がなくても S/N 比の良い観察が可能です。

### ■ 蛍光観察

励起波長は 650 nm が適しています。用いるフィルタは、Cy5 (Nikon 社) もしくは U-DM-CY5.5-3 (Olympus 社) 等が使用できます。蛍光波長はおよそ 660 nm をピークに検出されます。